

お台場海浜公園における水質改善対策

東京2020大会で、水泳(マラソンスイミング)及びトライアスロンの競技会場となるお台場海浜公園では、都が三重の水中スクリーンを設置しますが、その先も恒常的に泳げる海となるように東京都各局に改めて働きかけました。速やかな対応として、下記の通り6局から取り組んでいく新たな水質改善案が示されましたので、今後の動きを注視してまいります。



オリンピック・パラリンピック準備局	都市整備局
● 更なる水質等改善の対策(臭いの原因分析や対策など)の検討 ● 水中スクリーン(三重)の設置【総合調整】 ● 水質・水温WG(都・組織委・IOC・IF・専門家)による検討	● 公共施設や民間施設における貯留浸透施設の設置促進 ● 雑用水の循環利用による、下水道への負荷の低減 ● 民間による浄化設備の整備による、河川等の水質改善
下水道局	環境局
● 貯留施設の整備の加速による汚濁物質量の削減(約120万㎡→約140万㎡) ● 高速ろ過施設の整備の加速による汚濁物質量の削減(0か所→6か所) ● お台場周辺海域における雨天時放流口へのスクリーンネット増設によるごみ流出抑制(2か所) ● 下水道施設の清掃体制強化によるごみ流出抑制	● 東京湾小型船舶等環境保全協定(エコマリン協定)に基づく水質保全の推進
港湾局	建設局
● 水中スクリーン(三重)の設置【技術協力】 ● お台場周辺海域における水面清掃の強化 ● 公園内の砂浜に新たな砂(神津島産)の補充による浄化機能の強化	● 河川の水面清掃強化



六本木でのスマート街路灯の試作機設置

スマート街路灯とは、カメラやサイネージ、スピーカーなどが納められ通行量や属性などのビッグデータの収集や情報発信ができるスマートシティにふさわしい街路灯です。六本木商店街振興組合のご要望が試作機の設置という形で前に進みました。この取り組みを東京都戦略政策情報推進本部に伝え、Society5.0の社会実装モデルとして発表させていただくことになりました。



慶応仲通りでの道路標識・補助標識の変更

人通りも多く、道幅も狭い慶応仲通りの車両通行止めの標識が、長い間朝の8時から夜の20時までになっていました。慶応仲通り商店街のご要望を警視庁に伝え、実態に即し、車両通行止め時間を夜中の24時までに変更することができました。



東京・多摩市合同総合防災訓練

この度の、首都圏を直撃した台風15号の影響で被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。頻繁で強化している災害に備え、都民の安全につながる防災訓練の重要性が増しています。9月1日防災の日に行われた東京・多摩市合同総合防災訓練は、多摩直下型地震、マグニチュード7.3が発生したという想定で実施されました。都はさらなるセーフシティ東京を目指し、無電柱化や木造住宅密集地域の改善など、防災対策を強力に推し進めています。都民の安全・安心の暮らしを守るため、今後も皆さまからのご要望を丁寧にお聞きし、改善に向けて活動してまいります。

都民ファーストの会 東京都議団

都議会議員(港区選挙区)

入江のぶこ



都政レポート 令和元年第3回定例会 報告号

発行元

都民ファーストの会 東京都議団 入江のぶこ TEL:03-4360-9299
〒107-6012 東京都港区赤坂1-12-32 12F FAX:03-4360-8441

PROFILE

1962年生まれ。成城大学文学部英文学科卒業。民放テレビ局に勤務し、管理職として、子どもや子育てに関するコンテンツの企画・プロデュースを担当。平成29年の東京都議会議員選挙港区選挙区において初当選。都民ファーストの会東京都議団総務会長代理。都議会では総務委員会、議会運営委員会、オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ推進対策特別委員会に所属。

しっかり働き、しっかり育てる

安心して、働き、子育てできる東京を実現します!

ご意見・ご要望をお聞かせください

「あの問題がどうなっているのか教えてほしい」「都の子育て政策や働き方に関して意見したい」「政治について議論がしたい」など、都政や暮らしについてのご意見・ご要望がありましたらお気軽にご連絡ください。

都議会第3回定例会における

代表質問と答弁の内容を

抜粋してご報告いたします



主な代表質問と答弁のテーマ

- 1 東京2020大会観戦— 保育園児等の未就学児にも鑑賞機会を提供へ
- 2 ゆりかご・とうきょう事業の継続へ
- 3 防犯カメラ補助、補正予算で対応求める
- 4 東京2020大会暑さ対策の強化— 日陰をもっと作る
- 5 レガシーとしての暑さ対策について
- 6 高齢者ドライバー支援— 継続拡大を要望、自主返納も促進して
- 7 東京学校支援機構— 人材確保の支援、今年度から募集登録開始へ
- 8 時間的に制約のある方の就労支援について
- 9 宮坂学氏への期待

都議会第3回定例会

代表質問・答弁の抜粋

《都民ファーストの会 東京都議団資料より》

1 東京2020大会観戦 ― 保育園児等の未就学児にも鑑賞機会を提供へ

代表質問 現状では「幼稚園」に通う子どもたちは観戦機会が得られる一方、「保育園」に通う子どもたちは観戦機会が与えられない点について公平性を保つべきとの声が届いていますが、都の見解を伺います。

**オリパラ
準備局答弁**

区市町村からは、学校連携観戦チケットの対象とならない保育園児等を含め、未就学児を対象とした観戦事業を実施したいとの声が寄せられています。都はこうした意見も踏まえ、組織委員会が関係自治体向けに準備しているチケットの活用について調整を行っており、スポーツの魅力や観戦マナーなどを事前に学んでもらい、直接観戦できる機会が提供できるよう、取り組んでいきます。また、暑さ対策の観点から、実施に向けては、観戦対象年齢について配慮するほか、屋内競技会場を中心とするなどの対応を進めていきます。

2 ゆりかご・とうきょう事業の継続へ

代表質問 今後、産前に加えて産後ケアの側面にも一層力を入れ、「ゆりかご・とうきょう事業」を継続し、区市町村の取り組みを手厚く支援していくべきだと考えますが、知事の見解を伺います。

**知事答弁
(福祉保健局)**

都は、全ての子育て家庭の状況を妊娠期から把握し、継続した支援を行うため、保健師等の専門職による全ての妊婦との面接や、産後ケア等を行う区市町村を、ゆりかご・とうきょう事業を通じて支援。来年度を初年度とする「次期東京都子供・子育て支援総合計画策定」においては、妊娠から出産・子育て期にかけて切れ目のない支援を行うための様々な施策を盛り込み、それらを実行していくことによって、区市町村と連携して子どもと家庭を支える社会の実現を目指していきます。

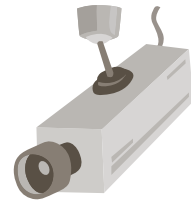


3 防犯カメラ補助、補正予算で対応求める

代表質問 地城の防犯カメラは、いまや必要不可欠な公的インフラの一つになっており、補正予算の編成含め、迅速な対応が必要と考えますが、知事の見解を伺います。

**知事答弁
(都民安全推進課)**

防犯カメラは、東京2020大会に向け、セーフシティ東京を実現するための必要不可欠なインフラであると認識しています。都は、区市町村と連携して、これまでに累計約2万台の設置を補助したほか、本年度から、防犯カメラの継続利用に資する保守点検費、修繕費への補助を新たに実施しています。その中で、本年5月、川崎市における児童生徒の大量殺傷事件、7月の京都市における放火殺人事件の影響もあり、地域の皆さまや区市町村から、より一層の補助を求める声が出ていることは承知しています。こうした声にしっかり応え、効果的な補助が行われるよう、財政上の対応を含め、適切に対応してまいります。

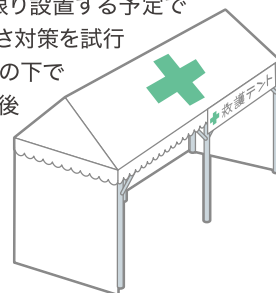


4 東京2020大会暑さ対策の強化 ― 日陰をもっと作る

代表質問 テント、人工日よけや木陰の整備など競技会場周辺において日陰を創り出すための取り組みを強力に推進すべきと考えますが、知事の見解を伺います。

**知事答弁
(環境局)**

費用対効果を考慮しながらテントによる休憩所や待ち行列が発生する場所での日よけを可能な限り設置する予定です。これまでにテストイベントで暑さ対策を試行しており、遮光性・遮熱性の高いシートを用いたテントの下では、暑さ指数の低減効果が高いことがわかりました。今後ご提案の対策も含め様々な対策の試行・検証を進め、効果が明らかになった対策を積極的に活用し、時機を逸することなく、大会本番における暑さ対策を強化していきます。



5 レガシーとしての暑さ対策について

代表質問 暑さ対策を東京2020大会のレガシーの一つと位置付け、大会後を見据えた、長期的な暑さ対策につなげるべきと考えますが、知事の見解を伺います。

**知事答弁
(環境局)**

大会を通して得られた暑さ対策に関する知見などは、都市のヒートアイランド対策の研究などを行ってきた東京都環境科学研究所において収集・蓄積していき、テントの活用などのノウハウについては、地域や学校などにも提供していきます。気候変動への適応は、「全庁的な会議」を設置し検討を進めていますが、今後、暑さ対策をこの会議の主要課題に位置づけ、これらの取り組みを総合的に推進することにより、都市の暑さ対策のレガシーとしていきます。

6 高齢者ドライバー支援 ― 継続拡大を要望、自主返納も促進して

代表質問 本年第2回定例会において、私たちの代表質問に対し知事から、安全運転支援装置の取り付け費用に対し、いわゆる「9割補助」を実施するとの画期的な答弁がありました。次年度以降の安全装置への補助の継続・拡充を検討するとともに、運転免許証の自主返納の促進など、一層の普及啓発を行うべきと考えますが、都の見解を伺います。

**都民安全
推進本部答弁**

都は、高齢運転者による交通事故を1件でも減らすため、緊急対策として安全運転支援装置の購入・設置に対する補助制度を7月に開始しました。都はチラシやポスターに加え、東京都公式ホームページやSNS、「広報東京都」等を活用した普及啓発を実施しているほか、区市町村にも制度周知を図っています。今後も様々な機会を活用し、継続的に制度の普及啓発に取り組むとともに、運転免許の自主返納の促進とも併せ、高齢者の交通安全対策を着実に推進していきます。

7 東京学校支援機構 ― 人材確保の支援、今年度から募集登録開始へ

代表質問 学校現場の厳しい状況を踏まえ、東京学校支援機構は、可能な限り速やかに人材確保の支援体制を確立すべきだと考えますが、教育長の見解を伺います。

**教育長
答弁**

現在機構が準備を進めている「人材バンク」については、大学や関係団体等とも連携し、募集や登録を、今年度から先行して開始していきます。学校が必要とする外部人材が来年度当初から活動できるよう取り組み、多様な人材の活躍による教員の負担の軽減と教育の質の向上を推進していきます。

8 時間的に制約のある方の就労支援について

代表質問 時間的な制約を抱える方が就労できるよう都内企業の取り組みを後押しすることが重要と考えますが、都の見解を伺います。



**産業労働
局長答弁**

都はこれまで、育児や介護と仕事の両立に向けて、時差出勤制度の採用やテレワークの導入を支援するなど、企業における柔軟な働き方の実現を後押ししてきました。今後は、こうした取り組みをさらに進め、短時間勤務に適した業務の切り出しや、仕事を複数人でシェアする仕組みづくりに取り組む企業を支援することにより、時間的に制約のある方の就労機会の確保を図っていきます。

9 宮坂学氏への期待

代表質問 東京都として、情報通信分野を専管する副知事を今回新たに設ける意義、そして、元ヤフー株式会社の社長であり、現在、東京都参与を務める宮坂学氏に副知事に就任していただく狙いについて、知事の見解を伺います。

知事答弁

世界的な5Gネットワーク競争を東京がリードしていくべく、積極的にICT施策を展開し、東京の更なる成長を促していく観点から、新たにICT専任の副知事として宮坂氏を選任することとしました。宮坂氏は、長年、インターネット業界において、最先端技術の効果的な活用に尽力してきた人物であり、企業経営者としての実績や、幅広い人的ネットワークについては、誰もが認めるところだと思います。宮坂氏には、これまで培ってきた知識や経験を都政においてもいかんなく発揮し、具体的な施策の展開に繋げ、5Gネットワークの早期構築と、それを基盤としたSociety5.0の実現に貢献していただけることを期待しています。

